

平成24年度卒業論文

# 生活の豊かさと宗教的な心

所属ゼミ	村澤ゼミ
学籍番号	1090401093
氏名	中喜重

大阪府立大学経済学部

## 要約

人間の歴史の中には必ず宗教が存在する。人は昔から神や死後の世界を信じて、それに救いを求めて宗教を信仰してきた。しかし生活が豊かになった現代では宗教を信仰しない人が増えてきている。では、神や死後の世界を信じる人（以後信仰心と呼ぶ）も減少してしまったのだろうか。

本稿では次の2つの仮説を立て、現代にも信仰心を持っている人は存在し、

1. 確かに生活が豊かになると宗教を信仰する人は減少する。
2. しかし信仰心を持つ人は生活の豊かさと無関係である。

この2つの仮説の分析には JGSS-2008 のデータを用いた。信仰心を死後の世界を信じるかどうか、生活の豊かさを世帯年収に置き換え、gretl という統計ソフトを利用した。

仮説1は分析の結果、世帯年収が250万～1000万の人は宗教をあまり信仰していないことが証明された。仮説2は分析の結果、世帯年収との関係は見られなかったが、平均を基準にした世帯年収のレベルでは、平均より上の人が信仰心を持っていることが証明された。つまり、世帯年収が高くなるほど信仰心も高くなる。

## 目次

第 1 章	はじめに .....	3
第 2 章	先行研究 .....	4
第 3 章	データ .....	5
第 1 節	JGSS .....	5
第 2 節	データの抽出 .....	7

### 第1章 はじめに

現代の社会にはさまざまな宗教が存在するが、その宗教を信仰する人の数は生活が豊かになるにつれて減少している、つまり世俗化が進んでいるのである。しかし、これは特定の宗教を信仰する人の数や宗教活動に時間・費用を使わなくなっているだけであって、神やあの世の存在を信じる（以後信仰心と呼ぶ）人やそのような心が大切だと思う人は減少していない。

## 第2章 先行研究

Rachel M. McCleary and Robert J. Barro (2006) では、宗教と経済の関係が述べられている。宗教を従属変数にとり、機会費用の原理により、生活が豊かになるほど宗教を信仰する人は減少していくことを検証している。

本稿ではこの研究をふまえて、信仰心に関する変数を従属変数にとり、回帰分析を行う。

## 第3章 データ

### 第1節 JGSS

日本版 General Social Surveys (JGSS) は、大阪商業大学 JGSS 研究センター（文部科学大臣認定日本版総合的社会調査共同研究拠点）が、東京大学社会科学研究所の協力を受けて実施している研究プロジェクトである。調査対象の母集団は、それぞれの調査年度の9月1日時点で満20～89歳の男女であり、層化2段抽出法により対象者を抽出している。層化は、全国を北海道・東北、関東、中部、近畿、中国・四国、九州の6ブロックに分け、各ブロック内で市郡規模に応じて大都市、その他の市、郡部の3つ（JGSS-2006以降は、大都市、

人口20万人以上の市、人口20万人未満の市、郡部の4つ)に分ける方法をとっている。国勢調査の調査区を調査地点の抽出単位とし、各層から調査地点を抽出している。調査地点数は、ひとつの調査地点の対象者数が最大でおよそ15になるように設定している。各調査地点における対象者の抽出は、選挙人名簿(許可されない場合は住民基本台帳)からの系統抽出により行っている。

データの回収方法は、面接法と留置法を組み合わせたものである。つまり、調査項目全体を面接調査票による設問と留置調査票による設問に分割し、回答者には両方の調査票への回答を依頼している。それぞれの設問をどちらの調査票に組み込むかは、両者の特性を生かすように考慮している。面接調査票には枝分かれの多い設問など回答が複雑な設問を組み込み、留置調査票には回答が容易な設問やプライバシーへの配慮が強く求められる設問を組み込んでいる。それぞれの調査票の所要時間はおよそ20分であり、合計40分ほどで調査が終了することを目指している。どちらの調査票への回答を先に依頼するかは回答者の都合に任せることにしているが、例年、面接調査票が先に実施される場合が大半である。

JGSSは面接調査票と留置調査票をそれぞれ1種類用いる方式でスタートしたが、JGSS-2003では、留置調査票をA票とB票の2種類用意し、対象者を半数ずつそれぞれの調査票に割り当てる方式をとった。この方式は、JGSS-2006以降、標準化されている。留置調査票を2種類用意した場合には、それぞれの留置調査票について十分な回答数を確保するために、全体としてのサンプル数を多く設定している。

JGSSの調査項目は、原則的に毎回調査する中心的な設問と、1回限りあるいは数回に1度だけ調査する時事的な設問に分けられる。中心的な設問には、回答者の職業や世帯構成などの基本属性に関する設問と、回答者の日常的な行動や基本的な生活意識、政治意識などに関する設問が含まれる。中心的な設問は、毎回同じ項目を継続して調査することが原則であるが、調査年度ごとに若干の修正を行うこともある。時事的な設問には、それぞれの調査時点で世間の注目を集めている出来事に関する設問や、集中的な分析が行いやすいように特定の

テーマに焦点を絞って組み込んだ設問が含まれる。JGSS-2005からは、一般の研究者への公募から組み込まれた設問も時事的な設問に含まれている。

## 第2節 データ

### 第1項 生活の豊かさ

生活の豊かさは世帯年収で置き換える。「昨年1年間のあなたの家の世帯収入は、この中のどれにあたりますか。税金を差し引く前の収入でお答えください。仕事からの収入だけでなく、株式配当、年金、不動産収入などすべての収入を合わせてください。」という質問に対し、該当する記号を1つ選んでもらうものである。それぞれの項目のダミー変数を取る。ダミー変数の作り方はgretlの「Dummies for selected discrete variables」で「Encode all variables」を選ぶとできる。「回答したくない」「わからない」「無回答」の選択肢は分析できないので、データから除外している。除外はgretlの「set missing value code」でその基数を打ち込むとできる。

### 第2項 信仰心

被説明変数の信仰心は死後の世界を信じるかどうかで置き換える。「あなたは死後の世界を信じますか。」という質問で選択肢1.はい 2.わからない 3.いいえ 9.無回答である。この変数には欠損値が存在するため、除外する必要がある。欠損値の除外も上記の除外方法でできる。この変数も「はい」、「いいえ」のダミー変数を作成し、「わからない」、「無回答」を除外する。

Model 3: Probit, using observations 5-4214 (n = 744)

Missing or incomplete observations dropped: 3466

Dependent variable: DQAFTRDTH\_1

QML standard errors

	<i>Coefficient</i>	<i>Std. Error</i>	<i>z</i>	<i>p-value</i>
const	0.404235	0.823577	0.4908	0.62355
DSZHSINCM_2	0.340519	1.05762	0.3220	0.74748
DSZHSINCM_3	-0.415399	0.880568	-0.4717	0.63711

DSZHSINCM_4	-0.408178	0.860973	-0.4741	0.63544
DSZHSINCM_5	-0.906243	0.86999	-1.0417	0.29756
DSZHSINCM_6	-0.462161	0.830894	-0.5562	0.57806
DSZHSINCM_7	-0.685462	0.823386	-0.8325	0.40513
DSZHSINCM_8	-0.86294	0.822264	-1.0495	0.29396
DSZHSINCM_9	-0.738547	0.823642	-0.8967	0.36989
DSZHSINCM_1	-0.357457	0.826999	-0.4322	0.66557
0				
DSZHSINCM_1	-0.328059	0.82688	-0.3967	0.69156
1				
DSZHSINCM_1	-0.55732	0.829721	-0.6717	0.50178
2				
DSZHSINCM_1	-0.210106	0.828047	-0.2537	0.79970
3				
DSZHSINCM_1	-0.270924	0.843003	-0.3214	0.74792
4				
DSZHSINCM_1	-0.435821	0.853103	-0.5109	0.60945
5				
DSZHSINCM_1	-1.22882	0.915868	-1.3417	0.17969
6				
DSZHSINCM_1	-1.39207	0.997075	-1.3962	0.16267
7				
DSZHSINCM_1	-0.323089	1.06832	-0.3024	0.76233
8				
DSZHSINCM_1	-0.913823	0.989015	-0.9240	0.35550
9				
DOP5HAPPZ_1	0.245367	0.158366	1.5494	0.12129
DOP5HAPPZ_2	0.142619	0.139048	1.0257	0.30504
DOP5HAPPZ_4	-0.304191	0.238038	-1.2779	0.20128
DOP5HAPPZ_5	-1.04248	0.58127	-1.7935	0.07290 *



DST5ECNY_1	-0.522613	0.183944	-2.8412	0.00449	***
DST5ECNY_2	-0.143479	0.137556	-1.0431	0.29692	
DST5ECNY_4	0.137415	0.145186	0.9465	0.34391	
DST5ECNY_5	0.252179	0.185201	1.3616	0.17331	
DST5LIFEY_1	-0.0844247	0.160246	-0.5268	0.59830	
DST5LIFEY_2	-0.240138	0.138222	-1.7373	0.08233	*
DST5LIFEY_4	0.214451	0.227839	0.9412	0.34658	
DST5LIFEY_5	-0.477713	0.424836	-1.1245	0.26082	
DOP5FFINX_1	-0.22174	0.210153	-1.0551	0.29136	
DOP5FFINX_2	-0.159373	0.127185	-1.2531	0.21018	
DOP5FFINX_4	0.0854428	0.151136	0.5653	0.57184	
DOP5FFINX_5	0.128724	0.523984	0.2457	0.80594	

Mean dependent var	0.405914	S.D. dependent var	0.385682
McFadden R-squared	0.060636	Adjusted R-squared	-0.009023
Log-likelihood	-471.9841	Akaike criterion	1013.968
Schwarz criterion	1175.390	Hannan-Quinn	1076.191

Number of cases 'correctly predicted' = 467 (62.8%)

f(beta'x) at mean of independent vars = 0.386

Likelihood ratio test: Chi-square(34) = 60.9331 [0.0031]

Model 4: Probit, using observations 1-4214 (n = 1429)

Missing or incomplete observations dropped: 2785

Dependent variable: DDORL\_1

QML standard errors

	<i>Coefficient</i>	<i>Std. Error</i>	<i>z</i>	<i>p-value</i>
const	-0.698771	0.705439	-0.9905	0.32191

DSZHSINCM_2	-6.13396	0.712548	-8.6085	<0.00001	***
DSZHSINCM_3	-0.369706	0.764084	-0.4839	0.62849	
DSZHSINCM_4	-0.558474	0.772178	-0.7232	0.46953	
DSZHSINCM_5	-0.393686	0.743042	-0.5298	0.59623	
DSZHSINCM_6	-0.320595	0.709583	-0.4518	0.65141	
DSZHSINCM_7	-0.691977	0.70677	-0.9791	0.32755	
DSZHSINCM_8	-0.719718	0.710454	-1.0130	0.31104	
DSZHSINCM_9	-0.711043	0.706736	-1.0061	0.31437	
DSZHSINCM_1	-0.877538	0.714773	-1.2277	0.21955	
0					
DSZHSINCM_1	-0.454775	0.711223	-0.6394	0.52254	
1					
DSZHSINCM_1	-0.675702	0.716829	-0.9426	0.34587	
2					
DSZHSINCM_1	-0.639066	0.7141	-0.8949	0.37083	
3					
DSZHSINCM_1	-0.790937	0.732446	-1.0799	0.28021	
4					
DSZHSINCM_1	-0.850079	0.75646	-1.1238	0.26112	
5					
DSZHSINCM_1	-0.612383	0.775728	-0.7894	0.42986	
6					
DSZHSINCM_1	-6.2037	0.77356	-8.0197	<0.00001	***
7					
DSZHSINCM_1	-0.73974	0.888543	-0.8325	0.40511	
8					
DSZHSINCM_1	-1.24424	0.838522	-1.4839	0.13785	
9					
DOP5HAPPZ_1	0.0637671	0.157377	0.4052	0.68534	
DOP5HAPPZ_2	0.0406479	0.133439	0.3046	0.76066	

DOP5HAPPZ_4	-0.0557156	0.229728	-0.2425	0.80837	
DOP5HAPPZ_5	0.210308	0.441362	0.4765	0.63372	
DST5ECNY_1	0.316197	0.162889	1.9412	0.05224	*
DST5ECNY_2	0.147514	0.129262	1.1412	0.25379	
DST5ECNY_4	0.225818	0.125549	1.7986	0.07207	*
DST5ECNY_5	0.169621	0.18094	0.9374	0.34853	
DST5LIFEY_1	-0.0649978	0.163741	-0.3970	0.69140	
DST5LIFEY_2	-0.0793064	0.134423	-0.5900	0.55521	
DST5LIFEY_4	0.0680681	0.190733	0.3569	0.72118	
DST5LIFEY_5	-0.307541	0.382392	-0.8043	0.42125	
DOP5FFINX_1	-0.141582	0.182424	-0.7761	0.43768	
DOP5FFINX_2	0.0208952	0.109067	0.1916	0.84807	
DOP5FFINX_4	-0.0501709	0.154644	-0.3244	0.74561	
DOP5FFINX_5	0.106578	0.396729	0.2686	0.78821	

Mean dependent var	0.109867	S.D. dependent var	0.162765
McFadden R-squared	0.027362	Adjusted R-squared	-0.043378
Log-likelihood	-481.2353	Akaike criterion	1032.471
Schwarz criterion	1216.736	Hannan-Quinn	1101.283

Number of cases 'correctly predicted' = 1272 (89.0%)

f(beta'x) at mean of independent vars = 0.163

Likelihood ratio test: Chi-square(34) = 27.0756 [0.7945]